

8 雑草対策 (除草剤の使用のコツ)

POINT 1 直播栽培の雑草の課題

- (1) 苗立ち・初期生育が劣る場合は、一発処理剤が使用できません(薬害が心配のため)。
- (2) 直播栽培では、ノビエの発生量が多く生育も速いため、除草剤の散布遅れは、減収の一番の要因となる(適期散布を厳守)。
- (3) 湛水直播で落水期間が長期化した場合、畑の雑草(スズメノカタビラ等)も多発します。(は種はベストコンディションで行うこと!)

POINT1

草種を覚えて、どの除草剤の成分の効果が高いかを把握する。

POINT3

草の生育進度と稲の生育進度をきちんと把握して、除草剤の散布時期を逃さないこと。



POINT2

雑草の発生は水田によって異なります。発生量に応じて薬量や除草剤を選択する。

POINT4

空知型輪作体系を実践し、ほ場の雑草の密度を常に低下させる努力を怠らない。

雑草対策の基本は、雑草の種子を落とさないことです。多量の種子を落とした(草が残ってしまった)場合、その翌年は移植栽培か畑作物に切り替えることにしましょう。直播栽培を連作すると、雑草が大発生する原因となります。



POINT 2 自ら発生予測を実施(簡易予測法の手順)

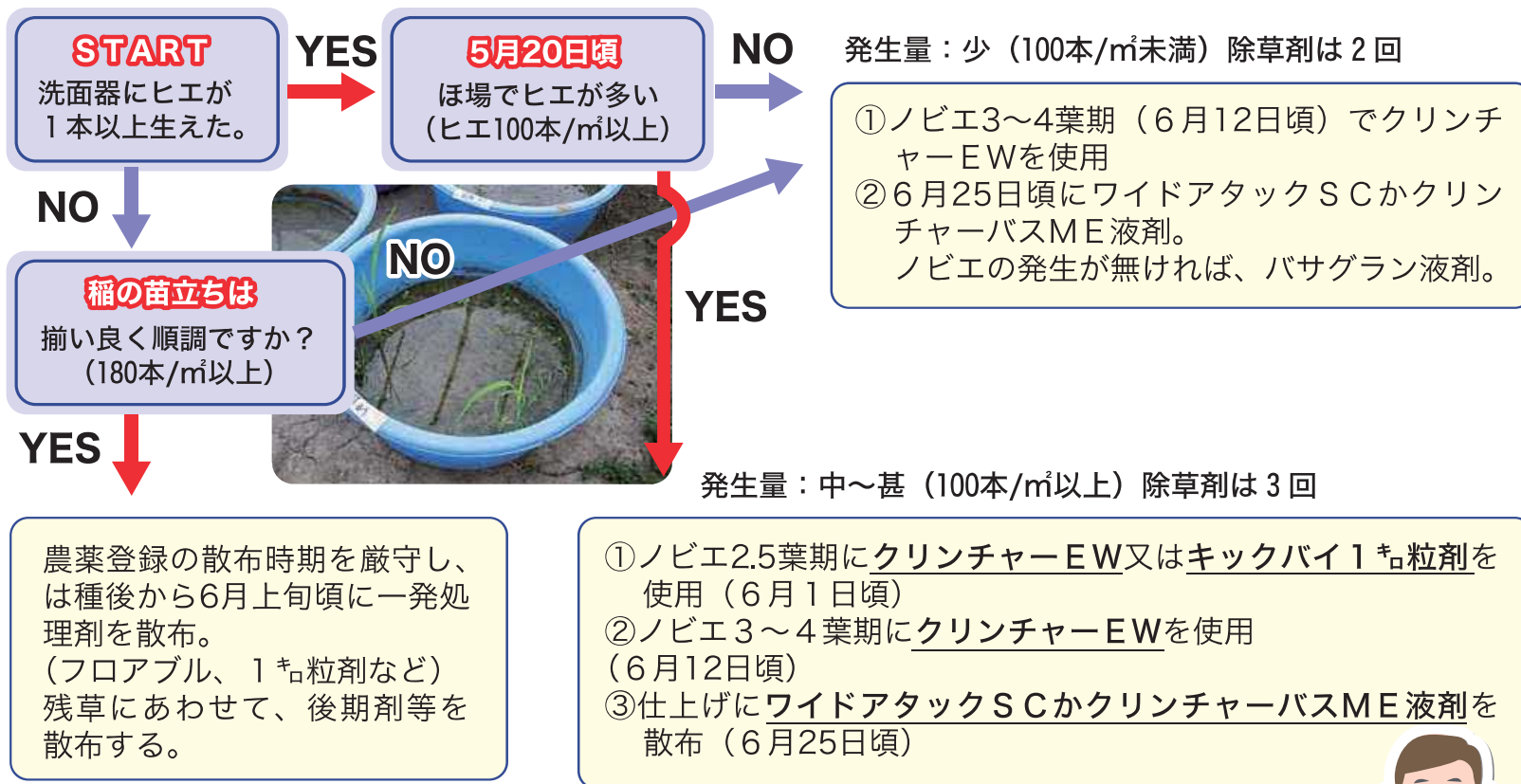
生育初期の雑草の判定は、大変難しいことです。この予測方法は、除草剤散布時期までに実物を、直に確認することができます。除草剤選択のポイントとなるので必ず実行してください。



※H19～21の調査結果より作成。

POINT 3 ノビエ対策を中心とした雑草対策 (除草剤の選択方法)

フローチャートを活用して、雑草対策を徹底しましょう！



現在登録されている初期又は初中期一発剤だけでは、除草対策は不十分です。除草剤のコストは多くかかりますが、茎葉処理剤を中心に体系処理を行うことを推奨します。



POINT 4 過去の初中期一発剤の試験結果から学ぶこと(散布の条件)

- (1) 使用ほ場における草種や、草量の見極めが重要です。(洗面器による雑草診断の励行)。
- (2) 薬害を心配して、稲の生育が安定する6月中旬の散布となると、ノビエの取りこぼしが極端に多くなります。
- (3) 出芽期が順調に迎えらるること(5月下旬に出芽始、6月上旬には散布できること)。
- (4) 苗立本数180本/m²以上が確保できていること(多少の減少でも減収しない本数を立てる)。
- (5) 日減水深が2cm以下であること(予備入水処理の励行)。

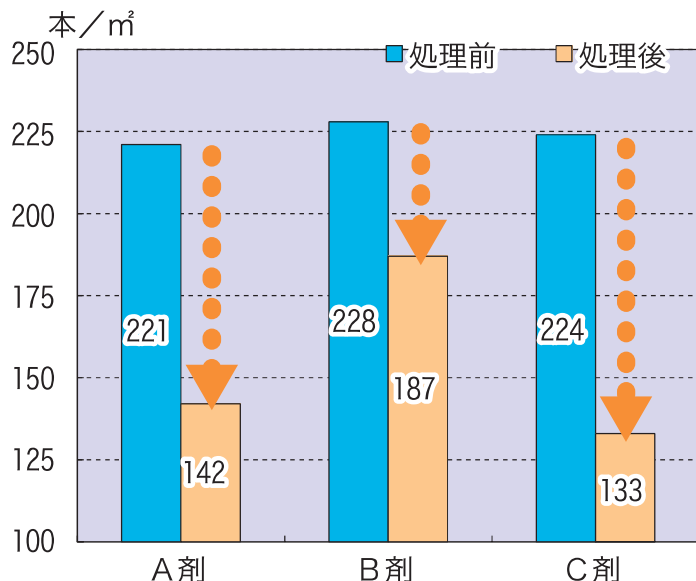


図 初中期一発剤散布後の苗立本数の変化
※H22調査。



ポイント

無処理区を50cm四方程度設置し、薬害や残草を確認し、経験値を高めよう！



年次により苗立本数や生育進度が異なり、処理時期の雑草の生育状態も異なります。薬剤処理後の影響も大小様々であるが、180本/m²以上の苗立を確保でき、5月下旬までに出芽揃を迎えられた場合は、一発剤を処理する方が、雑草の取りこぼしが少ないと思われます。ただし、「怖いな。」と思ったら、無理せずに体系処理で対応しましょう！

POINT 5 ノビエについて

ノビエは大敵です！特徴を掴み、発生を抑えましょう！



1回目のクリンチャーEWの散布時に、防除機のノズル不調で除草剤がかからなかった。部分散布などで何とかノビエが白化し、生育抑制できたが、この場所は減収した。

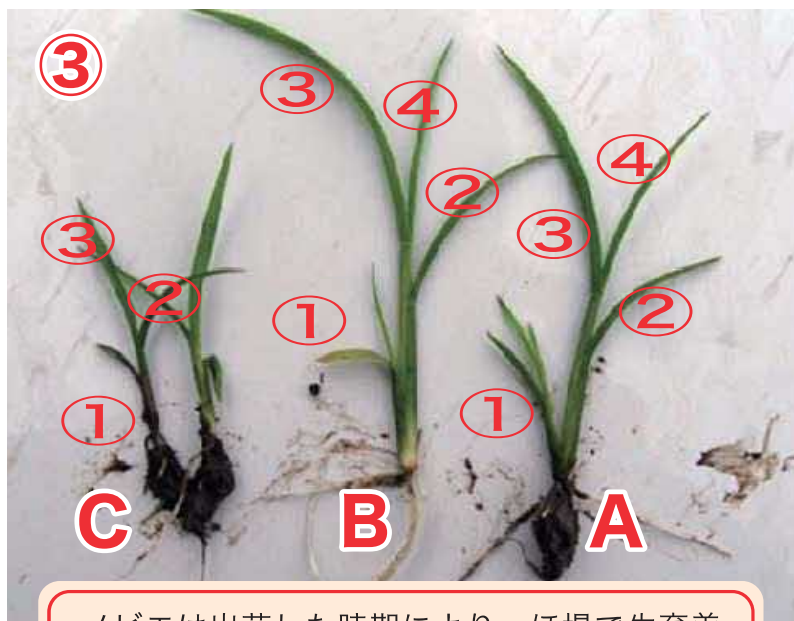


このほ場では、ノビエは高密度であったが、除草剤を適期に散布できたため、取りこぼしたノビエも除草剤の効果で未出穂のままで、稲が成熟期を迎えることができた。

ノビエの種子は株当たり数千粒で、その種子は土壌中で約10年は生存すると言われています。高密度のノビエは著しい減収を招きます。除草剤は適期に適量を散布しましょう！



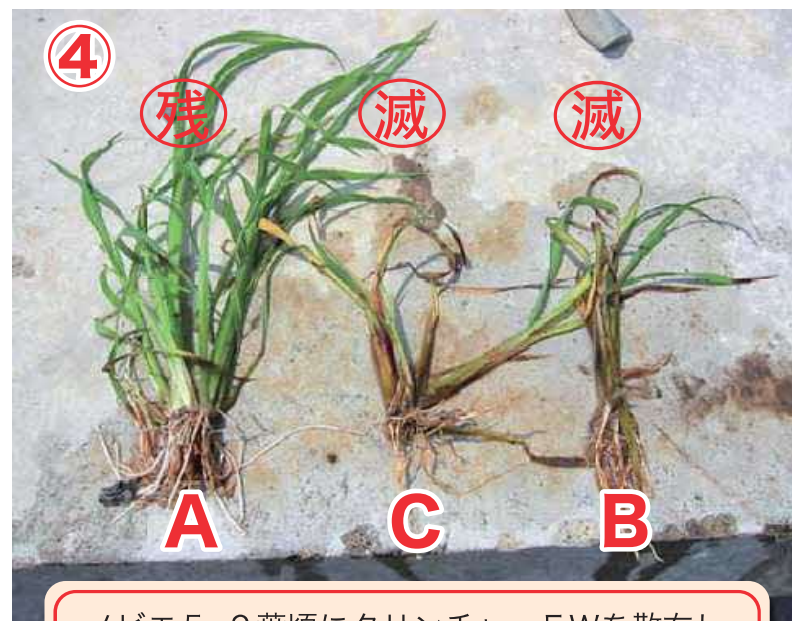
ノビエの出芽と生育進度は直播の稲より速く、その速さは稲の1.2倍程度です。おおよそですが、稲が4.0葉期には5.0葉期となります(稲よりも1枚葉が多い状態)



ノビエは出芽した時期により、ほ場で生育差がある。

- A : 3.5葉であるが、分けつも旺盛、根量も多い、葉色も濃い個体。
- B : 3.5葉の平均的な個体。
- C : 3.0葉の平均的な個体。

Aのようなノビエの個体は、5葉期に克林チャーEWを散布しても取りこぼしてしまいます。Aのような個体の多いほ場では、油断せず早めに除草剤を散布し、可能な限り取りこぼしのないよう心がけましょう！



ノビエ5.0葉頃に克林チャーEWを散布して、14日後に調査した様子。

表 ノビエ発生と収量の関係

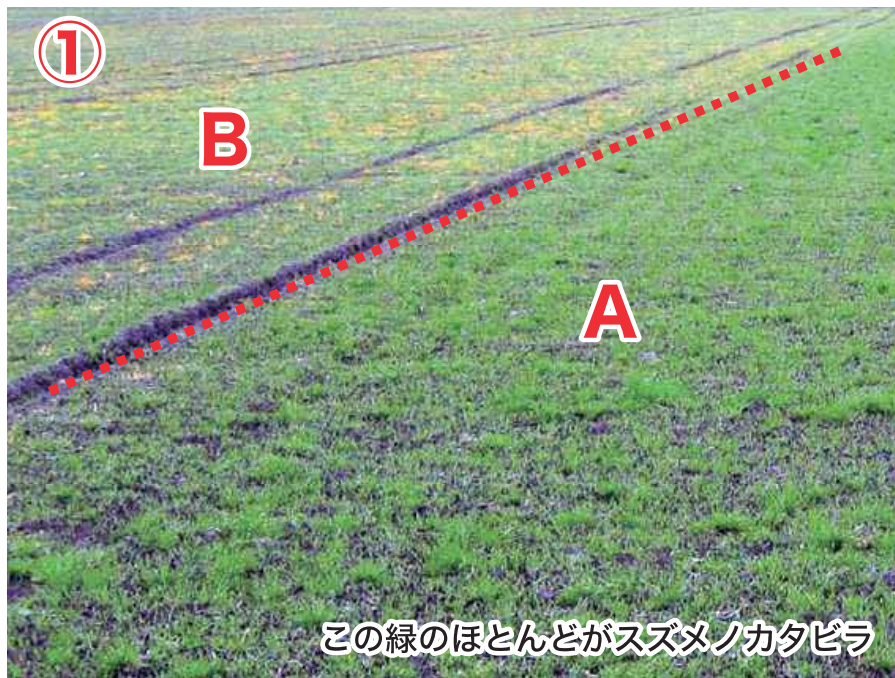
ノビエ発生度	1工生合 1粉粒	穂数 千粒/m ²	総粉数 千粒/m ²	わら重 kg/10a	収量 kg/10a	整歩 %	粒合 %	千粒重 g
甚	29.2	11.9	401	206	59.9	24.8		
多	36.0	23.7	513	234	66.7	25.4		
無	56.0	28.0	772	610	68.7	26.7		

※H23調査

POINT 6 乾田乾籾播種法によるラウンドアップマックスロード出芽前処理法

ラウンドアップマックスロード出芽前処理法は、乾田乾籾直播でのスズメノカタビラに代表される畑作雑草の対策として実施します。

薬害は、稲の枯死です。出芽時期を見極め散布を実施しましょう！



A：1回処理

ラウンドアップマックスロードを200ml/10aを5月28日頃処理した区。

B：2回処理

Aと同様に1回目処理を行ったが、その後にスズメノカタビラの越年株や一年草が大発生したため、6月4日に2回目の処理を200ml/10aで行った区。

出芽期：6月5日 4葉期：6月28日

前作：乾田直播(連作2年目)

出芽前処理では、ラウンドアップマックスロードは当年に2回まで使用できます。ただし、大切なのは連作をせず、輪作をして、雑草の密度を高めないことです。



試験区分	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m ²	一穂 粒数	総籾数 千粒/ha	精玄 米 kg/10a	収量比 %	千粒重 g	整歩 %	粒合
散布無	60	9.5	625	36	23.7	206	38	25.9	58.3	
A	64	15.2	659	41	25.4	469	82	25.4	61.9	
B	69	15.8	786	40	31.3	562	100	26.5	69.2	

※H23調査。